



▲ さくらそうの花の蜜を吸っているミヤマセセリ

花筒に頭部の先を入れて吸蜜中のダイミョウセセリ ▼



▲ 吻を伸ばして止まろうとしているトラマルハナバチ

さくらそうの花の蜜を吸っているトラマルハナバチ ▼



赤城山麓のサクラソウ自生地
(現・群馬県指定天然記念物
「新里のサクラソウ群落」)で
観察された訪花昆虫

赤城山麓のサクラソウ自生地で観察された サクラソウの訪花昆虫

磯田 洋二

赤城山の南側には、関東平野に向かってなだらかな麓が広がっています。その麓からは幾筋もの清流が利根川の支流となって流れ出しています。そんな支流の一つである鏡木川の上流にはサクラソウの自生地が点々とあって、その中に、新里村指定天然記念物の「サクラソウ」や、群馬県指定天然記念物の「新里のサクラソウ群落」があります。鏡木川が村の中央を流れている新里村では、サクラソウを「村の花」に指定して、流域のサクラソウ群落の保護に大変な努力を払っています。

ある時、新里村の職員が「田島ヶ原サクラソウ自生地」の見学に訪れて、保護の現状や問題点についていろいろな質問をして帰りました。その折に、「新里のサクラソウ群落」は雑木林に囲まれた谷間にあり、自然に囲まれたよい環境にあることを教えてくれました。

その当時は、どんな昆虫がサクラソウの花にきて蜜を吸うのか調べているところでした。「田島ヶ原サクラソウ自生地」で調べたところでは、観察できた昆虫の種類は非常に多かったのですが、サクラソウの花に蜜を吸いに来たのはチョウの仲間のキタテハだけで、それも、たまに観察できただけでした。キタテハはたくさんいたので、もっと多く観察できてよさそうです。また、昆虫の種類も多いので、もっといろいろな昆虫がサクラソウの花を訪れてよさそうです。ほかの自生地ではどうなっているのだろうと思っていた所でしたから、さっそく「新里のサクラソウ群落」を尋ねて調べてみることにしました。そこで、浦和市社会教育課文化財保護係（現在は文化財保護課）の方をお願いして、新里村役場から調査を許可してもらったり、サクラソウの満開になる日を教えてもらい、当日は一緒に行って調査を手伝っていただきました。

1989年5月9日にその願いは果たされました。その日は一日中晴れて風のない穏やかな日になって、昆虫の調査には絶好でした。新里役場から案内されてたどり着いたとき、「新里のサクラソウ群落」は今が盛りと咲きほこり、谷間が薄紅色に明るく染まって見えました。谷間は東側と西側を急な斜面に挟まれて、南に開いて北に長くのびていました。東側の斜面は40mほどの高さの尾根筋までクリーコナラ林が続き、西側の斜面は20mほどの高さで、そこにはクリーコナラ林が茂っていましたが、その先は平らになって道路が通り、農家が点在する畑地になっていました。谷間には西側の斜面に沿って幅が1.5mほどの谷川が流れ、谷川と東側の斜面との間が平地になっていて、そこにサクラソウの群落が発達していました。この平地はおよそ標高470mのところであって、谷川に沿った長さは約60m、幅は広い所で約30m、面積は1500m²ほどになります。聞いた所では、

この平地は時々谷川が増水して土地を削るので、アズマネザサが繁る藪地のままになっていました。そこで、谷川から離れた場所をスギの植林地にしたところ、それまで谷川の縁に点々と生えていたサクラソウが、藪を刈り払った後に生えてきて繁殖するようになったといえます。

たしかに周りの自然は豊かです。自然に変化があって、いろいろな昆虫がたくさんいます。ここなら、たくさんの昆虫がサクラソウの蜜を求めて集まってくるだろうと思えました。サクラソウの蜜を吸いに来た昆虫の種類、蜜を吸いに来た時刻、蜜を吸うために滞在していた時間、滞在していた間に蜜を吸った花の数と群落の数、蜜を吸う時の行動など、いろいろなことが調べられると思うだけで胸がわくわくしてきました。

調査は午前10時に始めました。まず、大きなサクラソウ群落の中に1メートル四方の観察用の枠を設けて、そこに入ってくる昆虫を調べることにしました。徐々に昆虫がやってくと調べきれなくなるので、一人で受け持つ枠を2個にしたのですが、その心配は無用でした。1時間ほど見張っていたのですが、枠の中だけではなく、その周りにも昆虫はやってこないのです。そこで、午前11時頃には観察用の枠を5メートル四方に広げて、見張ることにしました。正午になり弁当をとりながらも見張りを続けましたが、とき折りキアゲハ・クロアゲハ・スズグロシロチョウ・キタテハが近くを飛ぶのを見掛けただけで、サクラソウの花の蜜を吸いに集まる昆虫を観察することはできませんでした。もしがしたら、私たちが見張っていない場所で昆虫がサクラソウの花から蜜を吸っているのかもしれませんが。調査の方法を変えて、サクラソウ群落の見られる全域を歩いて調べることにしました。しかし、午後1時近くまで、全域を数回まわりましたが、結果は同じでした。

このような状態が続いたので、サクラソウの花にやってくる昆虫との出会いをあきらめかけたその時です。先ほどまで見張っていた枠の中に、まるで落ち葉が飛んできたように、ふわふわとサクラソウの花に止まったチョウがいます。近付くと1頭のテングチョウが伸ばした吻を花筒に差し込んで、じっとしているではありませんか。あわててカメラを取りに戻ろうとしたとたん、すうっと飛び立って2メートルほど先のサクラソウの花に、さらに飛び立って1メートルほど先のサクラソウの花に止まり、すぐに飛び去ってしまいました。一瞬の出来事でしたが、サクラソウの花の蜜を求めてやってきたテングチョウとの出会いに大いに気をよくしました。それからは、再びテングチョウが戻ってくるのではないかと、あちらこちらと見渡しながら過ごしたのですが、二度と現れませんでした。

午後1時30分頃でした。サクラソウの花を次々と尋ねて回る1頭の小型のチョウを見つけました。ただちにカメラを手にして近づくと、そこにサクラソウの花に止まって蜜を吸っているミヤマセセリがいました。ミヤマセセリは1個の花に6秒から12秒かけて蜜を吸うと、20センチメートルから60センチメートル離れた花に飛び移り、全部で16個の花を尋ねて飛び去りました。これは、ミヤマセセリを見つけてからの記録なので、それ以前に尋ねた花の数はわかりません。花から花へと飛び回るミヤマセセリを追って、やっと1枚だけ証拠写真を撮ることができました。ミヤマセセリの写真を撮り終えて顔を上げたときです。目の前に突然トラマルハナバチが現れてサクラソウの花に止まり、次々に花をめくり始めました。トラマルハナバチはサクラソウの花に止まると、その重みで花ごと垂れ下がって花の間に姿が隠れてしまうので、証拠写真を撮るのに苦労しました。しばらくするとトラマルハナバチは空高く飛んで、そのまま西側斜面の樹冠の上を飛び去って行きました。飛んできて飛び去るまでの時間は約6分間でした。飛び去った方をあぜんとして見送っていたところ、1頭のキタテハが目の前を横切ったので、あわててその姿を目で追いました。キタテハは谷間を右に左に飛び回っていましたが、やがて少し離れたサクラソウ群落の中に降り立って姿を消しました。そのキタテハが何をしているのが確かめようと近づくと、パッと飛び立って少し離れたサクラソウ群落の中に降りて再び姿が見えなくなりました。このようなことを幾度か繰り返して、キタテハがサクラソウの花に止まって蜜を吸っている姿を確認することができました。さっそく証拠写真を撮ろうとカメラを構えながら近づいている時です。ひらひらっと飛んできた小型の黒いチョウがカメラの前のサクラソウの花に止まったのです。ダイミョウセセリでした。止まるとすぐに吻を伸ばし、頭部の先まで花筒に入れて蜜を吸い始め、そのままじっと動きません。この証拠写真はすぐに撮ることができました。ダイミョウセセリは1個の花に12秒から18秒かけて蜜を集め、近くの4個の花をめぐるどスツスツと飛び去って行きました。次にキタテハの証拠写真を撮ろうと、先程確認しておいた場所を探したのですが、そこに姿はありませんでした。その後、スジグロシロチョウがヒラヒラ飛ぶのを見ましたが、その

まま飛び去ってしまいました。次々に飛んできたチョウも午後2時を過ぎたころから、ぼったり姿を見せなくなり、再び退屈でゆったりとした時間が流れて行きました。

午後2時35分になったとき、トラマルハナバチが再び姿を現しました。前回現れてから55分たっていました。そして、前回と同じようにせっせとサクラソウの花をめぐるど蜜を集めると、また西側の斜面を飛び越えて去って行きました。さらに55分後の午後3時30分にもトラマルハナバチは現れ、同じようにして飛び去って行きました。あまりにも正確に55分ごとに飛んでくるので、本当に驚いてしまいました。マルハナバチは飛んでくると、上向きに咲いているサクラソウの花に近づき、ホバリングしながら吻を伸ばして、ゆっくりとサクラソウの花に止まって足場を決めると、ただちに吻をサクラソウの花筒の中に入れます。すると、サクラソウの花はトラマルハナバチの重みで垂れ下がってしまうので、トラマルハナバチはサクラソウの花を抱えるようにして踏み止まりながら蜜を吸い続けます。蜜を吸い終るとすぐ近くの花に飛び移って、同じようにして蜜を吸います。こうして、近くの花を次々に訪れるのですが、ときどき急に離れたサクラソウ群落に飛び移って、そこで再び同じことを繰り返します。1個の花に8秒から12秒かけて蜜を吸い、6分間から10分間滞在して50個から60個の花をめぐるどと飛び去って行きました。調査は午後4時頃に終りにしました。

この日の調査で、サクラソウの訪花昆虫として確認できたのは、チョウの仲間のテングチョウ・キタテハ・ダイミョウセセリ・ミヤマセセリの4種と、ミツバチの仲間のトラマルハナバチが1種の、合計5種でした。そして、午前10時から午後4時までの調査時間の中で、チョウの仲間がサクラソウの花を訪れたのを確認できたのは、午後1時から午後2時までの1時間だけでした。トラマルハナバチについては、サクラソウの花を訪れたのを最初に確認したのは午後1時40分でした。その後は55分間隔で現れていましたが、午後4時に調査を終ったので、その後の事はわかっていません。

最後に、現地を案内してくださった新里村教育委員会の職員の方々に、厚く感謝いたします。

(浦和市文化財保護審議会委員)

ツマキチョウも田島ヶ原サクラソウ自生地で サクラソウの蜜を吸っていた

磯田 洋二

サクラソウの花は、昆虫に花粉を運んでもらって実を結ぶ仕組みになっています。田島ヶ原ではサクラソウの花にくる昆虫に、めったに出会えないのですが、しかし、サクラソウはよく実を結んでいます。私は、「サクラソウの花粉を運んでいる昆虫がいるのに気づいていないのかも知れな

い」と考えて、田島ヶ原でサクラソウの花から蜜を吸っている昆虫を探しては、その証拠写真を撮っています。

サクラソウの開花最盛期（花盛りの時期）になった田島ヶ原では、アゲハチョウ、キアゲハ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、ツマキチョウ、モンキチョウ、キチヨ



サクラソウの花から蜜を吸う雌のツマキチョウ
(田島ヶ原 2000年4月18日 磯田洋二撮影)

ウ、キタテハ、ヤマトシジミ、ベニシジミ、ヒメウラナミジャノメ、イチモンジセセリ、ギンイチモンジセセリを見ることができます。

去年(平成11年)はキタテハとモンキチョウの2種類について、サクラソウの花から蜜を吸っているようすを観察できたので、その証拠写真を添えて紹介しました。今年(平成12年)はキタテハとモンキチョウに加えて、ツマキチョウがサクラソウの花から蜜を吸っているのを観察できたので、そのようすを証拠写真を添えて紹介します。

ツマキチョウの吸蜜行動(蜜を吸う時の動き)を観察できたのは2000年4月18日のことです。今年は暖冬でしたが3月に入ると寒い日が続き、サクラソウの開花最盛期はいつもの年より1週間ほど遅れていました。この日は、サクラソウ群落の植生調査のために田島ヶ原に来ていましたが、サクラソウ群落のあたりに、キタテハ・モンシロチョウ・ギンイチモンジセセリなどが活発に飛んでいるのが見えたので、調査の合間を利用してサクラソウの花に来る昆虫を探すことにしました。日中は晴れて暖かく、風がなくて穏やかでした。

第一自生地の東寄りにあるサクラソウの大群落のあたりに、2頭の白い中型のチョウが飛んでいて、ときどきサクラソウ群落の中に姿が見えなくなります。このような飛び方から、サクラソウの花に蜜を吸いに来ているのではないかと思い、急いで近づいて行きました。飛んでいたチョウが降り立ったサクラソウ群落のあたりを探すと、1頭の雌のツマキチョウが羽を半開きにしてサクラソウの花に止まっているのを見つけました。時計を見ると2時40分でした。ツマキチョウは吻を花筒に差し込み、頭部を花筒に押し込むようにして蜜を吸っています。じっとしているので、さっそく証拠写真を撮りました。ツマキチョウは、この花の蜜を吸い終るとすぐ近くの花に移って蜜を吸い続け、おなじょうにして3センチメートルから10センチメートル離れた3個の花を訪れると、急に飛び立って約3メートル離れた

たサクラソウ群落に移り、そこで近くの6個の花を訪れて蜜を吸い、再び急に飛び立って約2メートル離れたサクラソウ群落に移り、そこでもまた近くの6個の花の蜜を吸うと、急に飛び立ってそのまま遠くへ行ってしまいました。ツマキチョウが蜜を吸うために1個の花に止まっていた時間は10秒から30秒で、この場所に滞在していた時間は約7分でした。それに、気付いた事ですが、ツマキチョウが蜜を吸うために訪れたサクラソウは、サクラソウの大群落ではなくて、その近くにある数株の小群落だったことです。なぜか理由はわかりませんが、興味を引いたので紹介しておきます。もう1頭の白い中型のチョウも雌のツマキチョウでしたが、それ以外のことは調べられませんでした。なお、毎年のごとですが、田島ヶ原ではこの時期になると、ツマキチョウの飛んでいるのを普通に見ることができます。

(浦和市文化財保護審議会委員)



花筒に頭部を押し込んで蜜を吸うツマキチョウ
(田島ヶ原 2000年4月18日 磯田洋二撮影)



さくらそう通信

平成13年3月21日

編集・発行 浦和市教育委員会

浦和市常盤6-4-4

☎048-829-1796



題字 教育長 浅見 匡